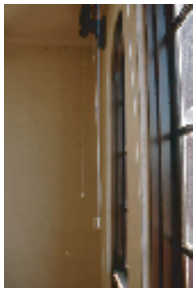
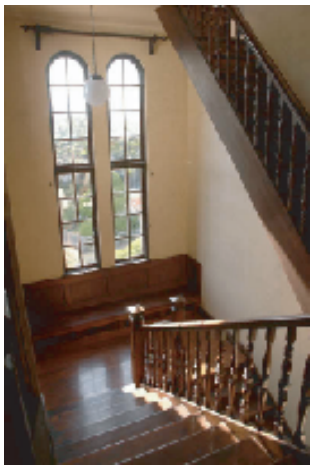




ない　とは　ちがう
明らかに　ある
ある　とも　ちがう
明らかにはされない
さわる　さわれない
確かめる
確かめられない

別の世界のものごとなどでなく
この手に触れる　あふれるものの中にあるもの
例えばそれは
冬の朝、一歩踏み出して家を出る時のふくらはぎの張り
浴槽の淵に並ぶ無数の水滴
手のひらのうえの一本の皺
私の体
私の体というやわらかい暗闇
白い月

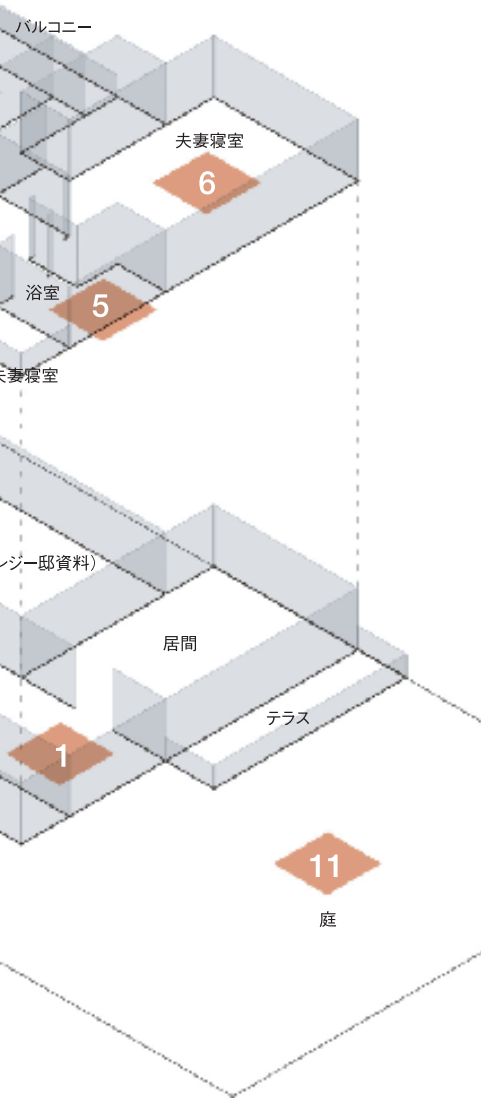
空中に浮かぶ小さな埃のような、取るに足らないもの
なのに
全ての力をあわせても持ち上げられないような、重いもの

4 階段踊り場

保崎絵美子 Emiko Hozaki

「小さいもの」

2007
板ガラス、絹糸、ミルクピッチャー、蜂蜜



1 1階ホール

内海健夫 Takeo Utsumi

「シンメトリーな配置の中で
変わることなく注がれる光に包まれながら」

2007
1,140×1,368×2.75 mm
卵殻、透明シート

「身近にあるもの」

私は、身近にあるものの中で見い出したものをもとに、作品を制作しています。卵殻（鶏卵）もその中の1つです。

卵殻は自宅で自炊した時に出たものを使用しますが、そのままの状態では使えません。実際には、卵殻の内側にある薄い卵殻膜を丁寧に取り除き、洗剤でしっかり洗い乾燥させ、乳鉢の中ですり潰し粉末にしたものを使用します。

卵殻は主に炭酸カルシウムを主成分としていますが、じつは、既製の画材の中にも卵殻と同じ成分を持ったものがいくつかあります。それが白亜と胡粉といわれる顔料です。

白亜は、白亜紀の有孔虫類の残骸による堆積物を原料にし、また、胡粉は、貝殻（蛤、牡蠣、帆立）などを数カ月から何十年もかけて風化させたものを原料にして作られています。双方とも山や海といった、これまで人間が深く関わって来た場所で見ることができ、また、こうしたことから、先人達が身近にあるものの中に画材としての素材を見い出し、獲得していったことをうかがい知ることができます。こうした、画材を通して見えてくる先人達の姿は、私に、先人達とのつながりを意識させてくれます。